



東日本大震災から11年

2011年3月11日、午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。最大震度7を観測し、その直後に最大9.3メートル以上の大規模な津波が広範囲にわたって沿岸部に押し寄せました。復興庁によると、災害関連死を含めてこれまでの死者は1万9747人、行方不明者は2556人、今も3万8139人が全国で避難生活をしています。（2022年2月現在）

震災から10年が経過し住宅の再建・復興まちづくり、復興道路、JR常磐線の全線開通などにより復興も進み震災前に近づいています。また、東京電力福島第1原子力発電所事故により、一部で現在も避難指示区域（帰還困難地域）に指定されており、今もなお故郷に帰れない人は多くいます。そして、先の見えない廃炉作業が現在も続いています。

私たちは当時、仲間や家族、親族の安否を心配する中でもお客さまの避難誘導を優先し、営業列車での死者はいませんでした。また、全国の仲間から心温まる支援を多くいただき組合員の元へ支援物資を届け、労働組合の枠を超えて行動してきました。

東日本大震災は私たちに様々なことを教えてくれました。水や電気、ガス等がなければ何もできない人間の弱さや普通の生活ができることの尊さを実感しました。人は一人では生きていけないこと、励まし合いながら地域や職場での絆を深めていくことを…。JR東労組としての東日本大震災の大きな教訓は「抵抗とヒューマンイズム」です。死亡者ゼロを実現できたのも普段の組合活動におけるその精神のたたかひの積み重ねが根底にあります。

東日本大震災からまもなく11年をおかえます。震災への想いは人それぞれです。家族や友人を亡くした苦しみを抱えながら過ごしている方もいます。仕事中に被災し、心の傷が癒えない仲間もいます。震災の苦しみは一生背負っていかねばなりません。

防災意識を高めて減災につなげるには、一人ひとりが災害を記憶し続けることが重要です。「10年という節目はない」という地元の方々が言うとおりに、これからも地域と共に歩み、東日本大震災を後世に伝える取り組みを継続して展開していきます。

【甚大な被害をもたらした巨大地震と津波】



【全国の仲間からいただいた心温まる支援物資】



JR東労組としての東日本大震災の教訓は「抵抗とヒューマンイズム」です

東日本大震災から11年

仲間との絆で乗り越えてきた教訓を今後活かしていこう!